

研修名 自然と保育研究研修

平成27年11月6日(金) 10:00~15:00

講演 「奈良公園内の巨木を中心に植物の観察を楽しむ」

講師 甲斐野 幸一 氏



1 講演要旨

1) 巨木について

地面から1.3mの、幹回りが3m以上の樹木を示す。

奈良公園には、サクラ・クロマツ・アラカシ・ケヤキ・ムクロジ・クスノキ・スダジイなどの巨木があり、都市と隣接する原始林は日本でここだけといわれている。

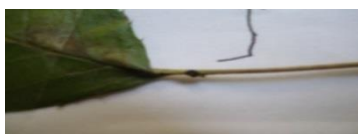
2) 子どもと自然観察をする時のポイント

自然の中で植物等を観察する際は、子どもたちに教えるのではなく、自ら気づくことを大切にすること。

またなぜそのようになっているのかを子どもたちが考えられるようなヒントをだし、やり取りをしていくこと。

3) 巨木の種類と特徴

サクラ (ソメイヨシノ)



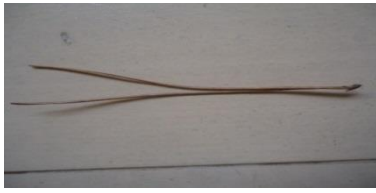
葉の柄についているイボのようなものは蜜腺である。ここから甘い蜜を出し、蟻を呼び寄せてダニや毛虫をたべてもらう。

まつぼっくり (クロマツ)



むささびがかじったもの。木の上で松ぼっくりの中にある小さな松の実を食べたあと、落としている。地面にたくさん落ちている木にはむささびの巣がある。

松葉



2本に分かれているのは太陽の光をたくさん浴びるためである

エノキ



神社に多く、発芽率が高いので子宝に恵まれると縁起のある木。葉脈がしっかりしている。主脈から見て左右非対称なのが特徴。

クスノキ



葉にも枝にも匂いがある。樟脳として虫よけの役目があり昔から日本には大事な木だった。

ムクロジ



僧が必要としていた木。種は数珠になり、皮は石鹼の材料となる。巨木になれば腐って空洞になることもある。

2 感想

研修では公園内にある巨木を巡りながら葉や実を採取し特徴や役割を学びました。園や散歩先で見ている身近な木も育つ環境によって高さも太さも違っていること、葉は柄の長さ、葉脈の形、厚さが異なり、葉に毛が生えていて感触が違うことなど、その役割や豆知識などを交え観察の楽しみ方を教わりました。最後に人間と木の違いについて考える時間の中で「木は酸素を出している」と話されたことが心に残りました。改めて自然に感謝しなければと思いながら子どもたちにも伝えたいと思います。ありがとうございました。

(記録 なかよし保育園 山田奈穂)